

# 議会広報広聴委員会記録

令和8年6月11日（木）

13：31～15：00

第4委員会室

【出席者】大谷委員長、岡山副委員長、  
西田一平委員、今田委員、遠藤委員、花田委員、戸津川委員、沖田委員、  
笹田委員、岡本委員

【委員外議員】森谷議員

【事務局】下間局長、濱見書記

---

## 議題

### 1 はまだ議会だよりVol. 82について……………資料1-1、資料1-2

- (1) ページレイアウト
- (2) 掲載記事及び原稿提出締切
- (3) その他

### 2 はまだ議会だよりminiについて……………資料2

- (1) 第46号掲載内容及び原稿担当
- (2) その他

### 3 地域井戸端会の反省について

- (1) 地域井戸端会の振返り
- (2) その他

### 4 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[ 13 時 31 分 開議 ]

○大谷委員長

ただいまから議会広報広聴委員会を開会する。

出席委員は9名で定足数に達している。なお、岡本委員から欠席の届出が提出されている。

1 はまだ議会だよりV。I. 82について

(1) ページレイアウト

(2) 掲載記事及び原稿提出締切

○大谷委員長

事務局から説明をお願いする。

○濱見書記

(以下、資料を基に説明)

○大谷委員長

それでは、はまだ議会だより82号について、内容と担当を決めさせていただきたい。

(以下、協議)

表紙	西田一平委員
6月定例会議 今回はこれがポイント	岡山副委員長
6月定例会議 トピックス	沖田委員、花田委員
議案等の賛否の公開、請願・陳情について	事務局
委員会代表質問・個人一般質問	各議員
附帯決議の対応	遠藤委員
議会改革度調査2025	事務局
地域井戸端会を開催しました	大谷委員長
市民対談	岡山副委員長、戸津川委員
委員会活動レポート	各委員会委員長
議長活動レポート	澁谷議長
9月定例会議開催予定、各種告知	事務局
表紙について	西田一平委員
あとがき	西田一平委員

○沖田委員

表紙写真について提案がある。現在は世界こども美術館に借りた作品を掲載する流れが続いているが、先般、東中学校の学校運営協議会に出席した際、生徒の作品が学校要覧の表紙などに使われているのを見た。各小中学校や高校の美術部の生徒の作

品を披露する場として、議会だよりの表紙に活用していくことも、今後に向けた検討をしてはどうか。教頭先生に聞いたところ、学校側としても発表の場がほしいとのことで、ぜひ協力したいとの言葉を得ている。すぐの実施は難しいかもしれないが、今後の制度設計も含めて検討を求める。

#### ○大谷委員長

子どもの作品を表紙の候補に広げてみるとの提案である。

#### ○笹田委員

議会だよりの発行は年4回と機会が少ないため、例えば議会だよりminiに掲載するなど、より多くの子どもたちの作品を載せるような仕組みにすれば、学校側の希望にも応えられるのではないか。中学校だけでなく小学校や高校も含めて、今後考えていけると良いと考える。

#### ○大谷委員長

方向性としては非常に良い提案である。どのように小中学校を割り振るか、あるいはどのような選定基準を設けるかなど、細部については今後検討することとする。今回は、従来どおりの方法で表紙を決めることとする。

### (3) その他

#### ○大谷委員長

資料1-3の「はまだ議会だより個人一般質問原稿作成の手引き（案）」について、事務局から説明をお願いします。

#### ○濱見書記

一般質問の原稿で問題になったため、原稿作成の手引きを作成してみた。文字数、写真やイラストのみ、編集権限などを記載したものである。Q&A形式の徹底や個人名の記載不可などをルール化している。

一般質問が始まる前に、各議員へこの手引きを添付して原稿依頼を行う予定である。

#### ○大谷委員長

この手引きの内容に沿って、今後原稿依頼を行うことで良いか。

( 「はい」という声あり )

それでは、手引きを添付して各議員へ原稿依頼を行うこととする。

## 2 はまだ議会だよりminiについて

### (1) 第46号掲載内容及び原稿担当

#### ○大谷委員長

事務局から説明をお願いします。

#### ○濱見書記

7月1日発行のmini46についてである。掲載項目案として、産業建設委員会の「行政視察（松浦市での取組）」と、議会広報広聴委員会から「はまだ市民一日議会」

の開催告知を提案している。その他、「議員のつぶやき」及び「議長日誌案」を掲載する構成を考えている。

### ○大谷委員長

ただいま提案のあった内容について、意見はあるか。

( 「なし」という声あり )

では、この内容で進める。はまだ市民一日議会の告知については、事務局で原稿案を作成されたい。産業建設委員会の視察報告については、同委員会に原稿作成を依頼する。議員のつぶやきは、戸津川委員にお願いする。

「議長日誌」は澁谷議長にお願いする。原稿提出締切は6月19日(金)14:00となっているため、よろしくお願いします。

## 3 地域井戸端会の反省について

### (1) 地域井戸端会の振り返り

#### ○大谷委員長

5月に開催された地域井戸端会について、記憶の新しいうちに振り返りと反省を行う。事務局から参加者の実績報告をお願いします。

#### ○今田委員

令和7年5月開催実績は181名であったのに対し、令和8年5月開催実績は195名となり、微増だが前年比で増えており良かった。

今年度は新人議員も多く加わり、全体的に新鮮な雰囲気が進められたと感じている。ただ、参加人数について、今回の結果を検証し、来年度も同様の形態で実施して人数が増えないようであれば、さらなる見直しや改善が必要だと考えている。また、今回気になったのは、各会場で担当外の議員の参加や発言に関するルールが統一されていなかった点である。地元の議員が市民として傍聴参加して良いか、発言して良いかなどのルールを事前に明確に決めておくべきだと思う。担当外の議員が発言してしまうと、本来の担当議員の役割や目的が曖昧になってしまうおそれがある。

#### ○遠藤委員

人数が極端に少ない会場については、まちづくりセンター長が無理に人を呼び集めているような場面も見られた。そのような負担を掛けてまで実施すべきか、参加見込みが極めて少ない場合は事前に開催を見合わせるなど、地域の実情に応じた柔軟な仕組みが必要だと考える。

#### ○戸津川委員

私たちの班では、少人数の会場であったためグループ分けを行わず、参加者全員とストレートに対話する方式を取った。この方法は、市民の生の声に対して直接やり取りができ、非常に有意義だったと感じている。人数が少ない場合は、無理にグループワークにするのではなく、直接話し合う方式も有効である。

#### ○花田委員

私は、今回が初めての地域井戸端会であったため、地域の実情を肌で感じること

ができ、勉強となった。担当した子育て世代包括支援センター「すくすく」の会場であるが、当初の目的であった「子育て世代の声を聞く」というねらいが、当日は地域住民の参加であったため、母親たちが自由に発言しづらい雰囲気になってしまった。ターゲットを絞った意見交換を目指すのであれば、最初の段階から開催の意図や参加対象について、しっかりと調整しておくべきだったと反省している。

### ○西田一平委員

普段なかなか足を運ばない地域へ赴き、地域の空気を感じられたことは有意義であった。一方で、先ほど出たとおり議員の参加や発言に関するルールが必要だと感じた。議会広報広聴委員会からの事前の伝達や準備物の指示が不足していたと感じた。レジュメにテーマが記載されていなかったのも、ホワイトボードに常任委員会のテーマを貼って見やすくするなどの対応を独自に行ったが、こういった運営の工夫や必要資材は、事前に統一した指示を出しておくべきである。

### ○沖田委員

この地域井戸端会のスタイル自体、現在の社会情勢や市民のニーズを考えると、少し無理があるのではないかと感じている。毎回同じ方々が参加し、同じような要望が繰り返されている印象が強く、新たな展開が難しいのが現状である。この意見交換会のあり方については、より大きな視点で見直す時期に来ているのかもしれない。

### ○笹田委員

今出たように、限界にきていると感じる。例えば、日時やテーマの設定を各会場に委ねるなど、議員が求められているときに出向くというスタイルの導入も一案である。

私たちの会場でも、グループ分けをせずに進めたが、効率的に意見を聞くことができ、非常に円滑に進行した。

### ○岡山副委員長

司会進行のやり方について、特に新人議員向けに進め方のテンプレートや司会原稿、委員会の報告資料を事前に用意する必要があると感じた。また、配布資料として持参したはまだ議会だよりが足りなくなってしまった会場もあったため、部数調整も必要である。各常任委員会の活動報告についても、説明の仕方や内容にばらつきがあったと感じる。参加者から、耳で聞くだけでなく目で見ても分かりやすい1枚ものの説明資料があると、より理解が得られやすいと指摘があり、そのとおりだと思った。対話においては、1人の発言者が長時間喋りすぎないようにすること、この場限りの内容を広めないこと、他人の意見を批判しすぎないことなどの「対話のルール」を前もって共有しておくことが、誰もが安心して発言できる場づくりに欠かせないと感じた。事前に進め方の研修を受けるのも良いと思った。

### ○大谷委員長

会場はまちづくりセンターを設定しているが、参加者層が固定されてきており、変えることも検討が必要と感じた。また、夜間行くと帰り道の安全確保が課題と感じた。

今後、定例会議の常任委員会で回答作成や振り返りをされるが、その場では各委員も積極的に意見を出していただき、今後の地域井戸端会のあり方についての検討材料としたいので、よろしく願います。

そのほかに意見はいかがか。

#### ○笹田委員

今後の方針について、今出た意見をまとめ、早めに協議を行うべきである。

#### ○今田委員

担当のことだが、地元の議員が来ないと話が伝わりにくいとの意見もあった。

#### ○大谷委員長

議員は、地元だけでなく浜田市全体に目を向ける必要があるとの考えから、担当を地元にこだわらず設定した経緯がある。今後の方法について検討を進めたい。

### 4 その他

#### ○大谷委員長

事務局から報告事項をお願いする。

#### ○濱見書記

その他として、3点報告がある。

1点目は、はまだ市民一日議会のチラシについてである。前回委員会の指摘を踏まえ、申込方法や注意事項、参加条件の明確化などの文言を修正している。こちらのチラシデータは、6月18日の全員協議会にて全議員へ配布し、各自での周知を開始できるようにする。

2点目は、議会公式LINEの開設についてである。7月2日に財政課とサマーレビューを行う予定であり、来年度予算の必要性を説明しつつ、今年度に運用を開始できるよう調整を進める。

3点目は、先日開催された「浜田高校HIRAKU（課題解決型学習）」への参加報告についてである。資料に沿って、参加された委員から感想などの共有をお願いする。

#### ○西田一平委員

生徒にとって、議会や議員がまだまだ遠い存在であることを改めて、実感した。若者の政治参加は重要な課題であるが、政治は日々の生活の延長線上にあるのだということを理解してもらうため、私たち議員ももっと身近な存在になる必要があると感じた。

#### ○花田委員

初めての参加であったが、高校生と直接意見を交わす時間は非常に新鮮であった。時間が短かったが、それでも、少しでもこうした対話の場を様々な形で継続していくことが、子どもの声を大切にする土壌づくりにつながると感じた。

#### ○岡山副委員長

今回の意見交換を通じて、高校生にとって議員はまだ身近な存在ではなく、市政

や市議会に対しても一定の距離感を感じていることを改めて認識した。

はまだ市民一日議会については、その存在を知っている生徒もいたが、自ら活用しようという意識にはまだ結びついていないように感じた。

一方で、今回のように市議会議員と直接対話できる機会は、生徒たちが市政や議会に関心を持つきっかけとして有効であると感じた。若い世代の興味や理解を深めるためにも、議員が生徒と直接交流する機会を今後さらに増やしていくことが重要ではないかと考える。

#### ○大谷委員長

私も教員としてその場にいた。手法の都合で対話できた人数はわずかであったが、それでも子どもの意見を直接聞くことができる非常に貴重な場であると感じた。

参加した各委員お疲れであった。

#### ○笹田委員

今回の件だが、主権者教育の取組として重要であるため、全員協議会で報告して全議員に共有してみてはいかがか。

#### ○大谷委員長

では、全員協議会で報告することとする。

それでは、次回日程について確認する。次回は7月17日（金）午前10:00より、議会だよりV o 1. 82の編集会議を行う。各委員は予定の調整をお願いする。

以上で、議会広報広聴委員会を終了する。

[ 15 時 00 分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 大谷 学